

車は、もっとやさしくなれる。



高齢ドライバーの事故多発！

「車社会」と言われる現在、高齢ドライバーも年々増加している。被害者となることが多いお年寄りが、加害者になるというケースも多くなっている。

車はとても便利な乗物として現在生活になくてはならないものとなっているが、ひとつ間違えれば大きな代価を払わなければならない、悲しい事態を引き起す。

でも車は大切な移動手段だ。

病院などの生活に必要な施設が自宅から遠く、公共交通機関が整っていない地方では、車は重要な移動手段である。また核家族化が進み一人暮らしのお年寄りや老夫婦だけの世帯が増えている。健康に自信がないけれど車を運転しなければならない、というお年寄りも多いのではないだろうか。

車をもっと安全な乗物にしたい。

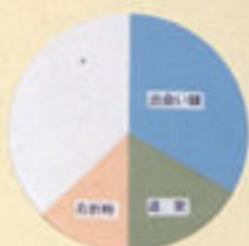
そこで私たちは、「かっこいい車」や「豪華な車」や「はやすい車」ではなく、お年寄りも安心して乗れる「より運転しやすい安全な車」を考えた。

高齢ドライバーによる事故の特徴

事故が起きた場所



事故の種類



高齢ドライバーによる事故の半数以上は、交差点で発生。事故の3分の1は、出会い頭による事故である。

加齢による身体機能の低下

体力・視力の低下

直視野が狭くなる

現在心身機能が充分に整っている人でなければ

車を運転するには危険だ、ということだが……

車はもっと易しくなれないだろうか。

お年寄りと同様に、体の不自由な人にあっても車はなくてはならないものである。体に障害があって他の人の手助けがないと進出することも儘ならない。と言う人でも「自分で運転できる」ということなれば自由に行動できる範囲がずっと広がり、社会との関わりも深まっていくことと思う。体の不自由な人たちの自立を容易にする足掛かりとなる車も考えてみたい。

高齢ドライバーにとって安全な車とは

すべての人にとっても安全な車だと思う。

体の不自由な人にとって

簡単に運転できる車は、

すべての人にとっても運転が楽な

車だと思う。

周囲の人もドライバーそれぞれのハンディキャップを認め理解しよう。



高齢者マーク（シルバーマーク）

初心者マークと同じように65歳以上のドライバーは、このマークを運転する車の前とうしろにつける。



身障者マーク（HDマーク）

今後、社会の意識や身障者の自立意識が高まれば、身障者自身が運転する車が増えてくるにちがいない。身障者が運転する車には、このマークをつける。このマークをつけることによって他の車も思いやりの運転を心掛けてくれることを期待する。

やさ 車はもっと優しくなれると思う。

お年寄りや体の不自由な人にも安全・簡単に運転できる車がすぐに気軽に購入できたり、子供やお年寄りや体の不自由な人やいろいろなハンディーキャップを持つ人など、「交通弱者」と言われる人たちをわきに追いやりの「車社会」ではなくて、弱者を中心にして考えた考え方ができる世の中になればよいと思う。車に乗る人に優しいだけでなく、歩行者や自転車に乗る人にも「優しい車」を考えてみたい。

car navigation system



カーナビゲーションシステムには、通常車のみならず、実際車に搭載される車と周囲の車の位置を表示したり操作が簡単な車ナビゲーション、また危険な接近物があるとそれを警告してくれる。

cabin



普通の車より広いスペースで広く車内が開放感あるエアコン装置。
車内のスピーカーからリカーナビ、車の機能が音声で操作ができる。

solar panel



sheet



slope

車のドアは車のカギについているリモコンで操作ができる車で結構。車の前進方向スロープの角度は近く車を握りこまね。

車外外人が可能でドライバーシートで取り外した車は車椅子乗ったままスロープから入り可能である。



health care monitor

車の運転状況を把握するようにここに測定機器の表示・操作などが表示される。